

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	家族等へ説明を行ないベッドの4点柵を実施している。身体拘束廃止への研修等への参加、日々身体拘束をなくす取り組みを検討しているが、経過等の記録整備が不十分な状況。	身体拘束を行なう上での必要な書類整備ができ、廃止に向けたより良いケアへの取り組みができる。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な話し合い、研修への参加継続。 経過及び再検討の記録を整備し、家族等へ書面等で説明、報告を行なう。 	3ヶ月
2	4	運営推進会議を家族代表や地区の役員の方、市役所の方が参加されて行っている。地域の方々からの意見は有難く、運営の支えとなってきた。その会議内容の全体の報告は家族全員に行っているが、職員には一部ミーティング等で取り上げる場合を除き、行っていなかった。	職員も運営推進会議の一員として、グループホームの運営、評価、改善に参加し、地域とのつながりを深めていく。	<ul style="list-style-type: none"> 会議報告を家族同様に書面で、回覧という形で職員に報告する。 職員は会議報告書を閲覧し、気づきや意見等を持ちより、ミーティングなどで発言、提案、実行する。 	2ヶ月
3	35	グループホームの近く(2~3km)のところに活断層が想定されている。食堂の食器棚等の転倒防止対策は行っているが、居室の箆笥などの転倒防止策は行っていない。地震などで入居者が家具の下敷きにならないように対策を行う必要がある。	入居者が、急激な地震の揺れでも安全に避難できるよう居室環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの居室の家具に適した転倒予防器具等を準備し、設置する。 設置後定期的に点検し予期せぬ地震の揺れに対応できるようにしていく。 居室の出入り口や、非常口には非常時の避難を妨げないように物品を日頃から置かないようにする。 非常口の改善。 	3ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。